５　ＩＰＭ実践指標の活用

⑴　ＩＰＭ実践指標とは

ＩＰＭ実践指標は、ＩＰＭを実践する上で必要な農作業の工程（以下「管理項目」という。）と各工程における具体的な取組内容（以下「管理ポイント」という。）を示すことで、農業者自身がＩＰＭに関する取組の程度を容易に把握するためのものである。農業者は、ＩＰＭ実践指標に記録した取組結果について評価を行い、翌年度の取組に反映させることでＩＰＭを効率的に実践することができる。

静岡県ではこれまでに水稲、キャベツ、施設トマト、施設なす、温室メロン、いちご、わさび、畑わさび、白ねぎ、にんじん、茶、かんきつ、ハウスみかん、なし、ぶどう、ガーベラ、バラ、施設キクの実践指標を策定している。

⑵　ＩＰＭ実践指標の活用方策

ＩＰＭ実践指標の具体的な活用方策としては、各農業者が自己点検した結果を以下の考え方で指数化することにより評価できる。

評価の手法としては、下記に示すような手法が考えられる。

ア　ＩＰＭ指数（指数値で評価する場合）

ＩＰＭ指数	評価結果
指数８０以上（ＩＰＭ実践農業者）	A
指数６０以上８０未満（ＩＰＭ実践途上農業者）	B
指数６０未満（ＩＰＭ準備中農業者）	C

ＩＰＭ指数＝実施した管理ポイントの点数の合計／当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる全管理ポイントの最高点数の合計×１００

ＩＰＭ指数は、各農業者が設定した管理ポイントの合計点数を１００とした場合に、実際に実施された管理ポイントの合計点数の割合であることから、ＩＰＭの達成度合いを客観的に測定できるというメリットがある。

イ　ＩＰＭ指数向上度（指数の向上度で評価する場合）

ＩＰＭ指数向上度	評価結果
現状値より２０ポイント以上の向上	A
現状値より１０～２０ポイント未満の向上	B
現状値から１０ポイント未満の向上	C

ＩＰＭの導入初期においては、ＩＰＭ指数を用いてＩＰＭの客観的な達成度合いを測定するよりも、むしろ、今年度のＩＰＭの達成度合いが昨年度の達成度合いよりどの程度向上したかを示す手法であるＩＰＭ指数向上度を用いる方が、農業者のＩＰＭへの取組を促し、より農業生産現場にＩＰＭが浸透しやすいと考えられる。

ウ　ＩＰＭ指数の分布（モデル地域全体の農業者の相対的な評価で評価する場合）

ＩＰＭ指数の分布	評価結果
上位３割	A
中位４割	B
下位３割	C

モデル地域全体の農業者の相対的な評価（ＩＰＭ指数の分布）を組み合わせることにより、農業者

の意識啓発を図ることができる。

エ　地域全体のＩＰＭ実践度

例：ＩＰＭモデル地区（水稲作付面積６ha）の場合

Ａ農家２ha（ＩＰＭ指数 80）

Ｂ農家１ha（ＩＰＭ指数 50）

Ｃ農家３ha（ＩＰＭ指数 60）

$$\frac{\Sigma\text{（個人の水稲作付面積×ＩＰＭ指数）}}{\text{地域全体の水稲作付面積}}$$

$$= \frac{2\text{ha}\times 80 + 1\text{ha}\times 50 + 3\text{ha}\times 60}{6\text{ha}}$$

＝65＝地域全体のＩＰＭ実践度